



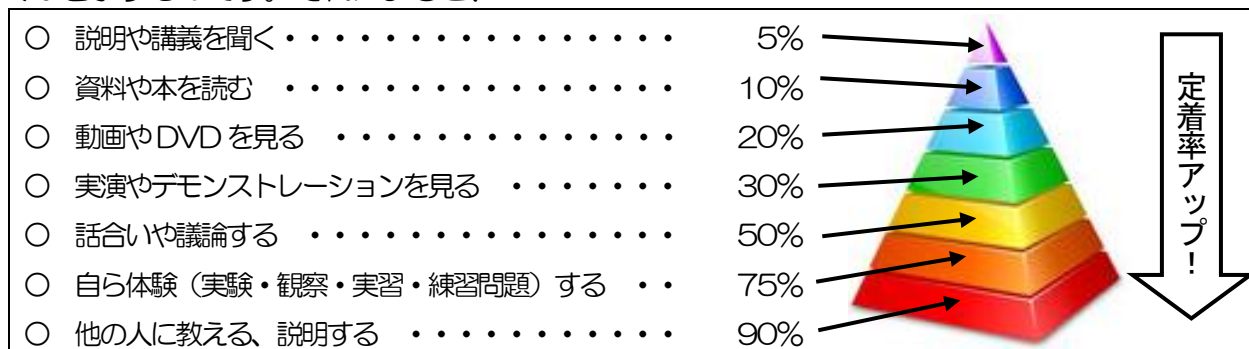
学校の校訓は『カー杯 今を生きる』 教育目標は『すすんで励もう』です

「大切なこと」

厳しかった夏の暑さも徐々に和らぎ、少しずつ秋めいてきました。長い夏休みが終わり、二学期がスタートしましたが、始業式には子どもたち全員が登校し、元気な姿と再会でき、とても嬉しく思いました。夏休み中、御家庭で健康、安全に十分に配慮してくださったお陰だと感謝しています。この2学期には学校行事なども多く、子どもたちにとって楽しいことや、活躍の場、成長の場が続きます。輝く笑顔と、がんばる姿を楽しみに、実り多き2学期にしていきたいと思ひます。



さて、これからの季節は「読書」「勉強」「スポーツ」など、何をするにもちょうどいい気候です。子どもたちは、日々の学習にも積極的に取り組んでいるところですが、学習方法と定着率（身に付いたかどうか）の関係について、アメリカの国立訓練研究所という機関が発表した「ラーニング・ピラミッド」という学習モデルがあります。どんな学習のやり方をすれば、学んだことが良く身に付くかを示すものです。それによると、



このことを図で示すと、右上のようなピラミッド型になり、上から下へ進む程、定着率が高くなるということです。右の写真では、友達に考え方や解き方を教えてあげたり、周りの人に説明したりしています。このような学習方法は、友達にとっても、自分にとってもいい学び方であり、現在の学習指導要領で重視されている「主体的、対話的で深い学び」につながる学習方法です。



最も学習定着率が高いとされる「他の人に教える、説明する」ですが、これは教室内だけに限ったことではありません。それは「親と会話をする場面」です。子どもたちは下校した後、御家庭で今日あった出来事を伝えているのではないのでしょうか。このことは、その日あったことを報告するだけでなく、今日学習した内容を親に教えていることができます。つまり、親子での何気ない会話も、子どもたちの学習定着率を高める貴重な学びの場となっているのです。



もちろんこのような学習は、聞く、読む（見る）、書くといったピラミッド型では上部の方に位置付けられている学習方法が土台となっています。これからもより良い指導方法の研修を深め、「すすんで学ぶ子」の育成に努めていきたいと思ひます。